

# 令和3年度 第1回御殿場市総合教育会議

---

## 日時

令和3年11月26日(金) 午後1時30分 から

## 会場

御殿場市役所 東館201～203会議室

## 出席者

御殿場市長	勝又 正美		
教育長	勝亦 重夫		
教育委員	勝又 英和	教育委員	杉山 ゆかり
教育委員	大西 孝明	教育委員	渡邊 直子
教育委員	長田 光男		

## 陪席者

教育部長	田代 学	教育監兼学校教育課長	勝俣 純
教育総務課長	木島 直久	社会教育課長	山崎 和夫
学校給食課長	遠藤 英樹		

## 次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項
  - ・第2期御殿場市教育振興基本計画の「主要施策」に対する令和4年度重点予算について
- 5 閉会

# 1 開会

---

教育総務課長（進行）

---

本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。  
定刻になりましたので、ただ今から令和3年度第1回総合教育会議を開催します。  
全体の進行は教育総務課の木島が務めさせていただきます。よろしく申し上げます。  
それでは、開会にあたりまして、初めに御殿場市長よりご挨拶をお願いします。

## 2 市長挨拶

---

市長

今日は、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。また、学校の校長先生も傍聴頂き感謝申し上げます。もともと、私が職員の最後の3年間を教育部長として勤めており、当時から教育委員をされている方もおりますので、気楽な感じで来てしまいましたが、大切な会議なので、皆様真剣で身が引き締まる思いであります。

今日午前中記者会見があり、12時過ぎまでかかりました。まだまだ川勝知事の発言の関係でマスコミの方たちもいろいろな意味で注目をしています。子ども達の目にも触れるわけで、子ども達も子ども達なりに色々感じることはないかと思っております。

多くの御殿場市民の心が傷つけられた事実なのでそれに対して誤りがある場合には当然謝罪と撤回ということで私ができる最低限のことは進めてまいりました。その後、今後政治的責任を追及することはないと申し上げてきたのですが、やはり一番大事なことは契機であり好機であると思っています。

子ども達に仲良く一緒に発展に向け行っていく姿勢を大人が見せることも一つなのかなと思います。これは記者会見の場でもマスコミの前では大人向けの発言をしていますが、子ども達も全く同じだと思います。喧嘩をしているわけではございませんので、イメージ的に子どもたちにそういった形で伝えていただくとよいのかなと思います。

今回のことを契機にいろんなことに取り組んでいます。将来的には子ども達が住む御殿場がよくなることが一番であるので、そういったことを教えていただけるとありがたいなと思います。この場をお借りして申し訳ございません。子どもたちに影響を与えているのかなと感じていますのでよろしくお願いします。

今日の議題の教育基本計画の関係におかれましては、皆さんのお話を色々伺いながら私の考えをお伝えし、皆さんのご意見をいただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお話ししたいと思います。本日はどうもありがとうございます。

教育総務課長

ありがとうございました。続きまして、教育長よりご挨拶をお願い申し上げます。

### 3 教育長挨拶

---

教育長

皆さんこんにちは。総合教育会議は、年2回計画をしていますが、新型コロナウイルスの緊急事態宣言により、今年は今回が第1回になっております。よろしくお願いいたします。

この総合教育会議につきましては、市長と教育委員でこれからの教育の施策について協議をするということで市長部局と教育委員会とが「教育施策の方向性についての考えを共有しながら、着実に施策が実行できるように」を目的とする会議です。教育委員会としても、とても大事な会議になります。よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症ですが、落ち着きを見せてきました。しかし、収束には至っておりません。考えてみますと令和元年度の末からですので3年度にわたって私たちが苦しめている状況です。非常に長い期間の生活の中で社会に暗い影を落としています。教育委員会としても主な役割として、様々な年代の市民の方々に学びを提供する目的がございます。この状況下で難しい部分ではございます。しかし、いろいろ工夫しながら事業を展開しております。形は変わりましたが継続できていることありがたいと思っております。

学校の関係の話ですが、あとひと月で2学期が終わるということで学校の先生には授業や行事等工夫しながら行っていただいています。今年は、GIGA スクールの関係で、1人1台のタブレット端末がスタートし、あるいは中学校で見ますと新しい学習指導要領が完全実施ということで大きな変化の時でしたが、こちらの方も着実に実行してもらい、子ども達はコロナの影響を受けながらもしっかり学んでいる状況です。

社会の変化も激しく、AI や IOT 等様々な言葉が出ておりますけども先端技術がいろいろなところで生活の中に入っています。

私は Apple Watch を使っております。時計で話ができるなんて夢物語でしたが、現実にもそのようなことが起きています。社会の変化が激しく、今の小学生が社会人として仕事につくときには6割以上の子ども達が今ない仕事に就くことになるそうです。社会が日々変化する中で子ども達を育むためには、教育の質を高め、色々と変えざるを得ないところです。

知識を獲得することを昔は重視していましたが、今は答えのない課題に挑戦するか考えるという力を求められています。これから教職員の方も質や量を充実させ、子ども達に良い教育を受けさせていきたいと思っております。

今年度は教育の大綱や教育振興基本計画が改訂されまして、教育委員会は、新しい一歩を踏み出している節目の年になります。次年度の教育予算や本市のこれからの取り組みの重点につきまして教育委員の皆さんのそれぞれの立場から考えを発信していただく貴重な機会となりますのでよろしくお願いいたします。

## 4 協議事項

- ・第2期御殿場市教育振興基本計画の「主要施策」に対する令和4年度重点予算について

教育総務課長

教育長ありがとうございました。

早速ですが、協議事項に移りたいと思います。

これからの進行につきましては、勝又市長よりよろしく願いいたします。

市長

ここからは私の方で進行させていただきます。改めて、教育委員の皆さん本当にありがとうございます。教育委員会をはじめ様々な行事に出席いただき、提言等もいただき心より感謝申し上げます。

それでは、協議事項の「第2期御殿場市教育振興基本計画の「主要施策」に対する令和4年度重点予算について」を事務局より説明願います。

教育総務課長

本日の協議件目につきまして、簡単に説明させていただきます。

第2期御殿場市教育振興基本計画は、本年7月に策定したもので、令和7年度までの本市の基本的な教育施策の方向性を定めているものでございます。

今回の会議では、本計画を実現するための重点的な予算を中心に意見交換をお願いするものです。

今回、お手元に資料として、計画の概要版を配布してございますが、その8ページから9ページに政策の体系を示しておりますのでご覧ください。

ページ中の「主要施策」として掲げているものの中で、令和4年度に重点的に予算化を進めたいと考えている事業を別途資料としてご提示しております。

委員の皆様におかれましては、資料に留まることなく、計画に関連する事項につきまして、広く自由なご意見を頂ければと思います。以上、説明といたします。

市長

それでは、教育委員の皆様から順番にご意見をいただき、意見交換していきたいと思っております。

まずは、勝又委員からお願いいたします。

改めましてこんにちは。思いのほか傍聴の方が多くて驚いています。私のほうからは、主要施策の6「学校などの教育施設・設備の充実」についてお話させていただきたいと思います。

それから、前段の話になりますが、この総合教育会議というものが教育委員会として予算を要求する場ではなく、あくまでも教育委員会と市長部局との調和をとって子ども達のために将来のためのご理解いただく場であると常々思っております。

釈迦に説法になってしまいますが、市長さんが最後に教育部長の職に就かれていましたので色々ご理解いただけていると思いますが、ご理解頂いているだけに甘いことは言えないのかなと思っております。とは言え、教育委員会そのものを深くご理解いただいている市長さんと思っておりますので本当に心強く思っております。

設備の関係の話をさせていただきます。先程教育長のほうからもAIという言葉が出てきましたのでお話しします。AIという言葉が出てきたのがわずかここ10～15年です。実際に大きな動きがあったのが2013年になります。大学でも情報学科等が設立したのはここ15年くらいの話です。

教える側の教授もその頃AIってなんだと周りから揶揄されたとの話を聞いたことがあります。AIといえば人工頭脳と皆さんは理解をしていると思います。今、タブレットが子ども達の手もとへ行きました。その前は電子黒板ということで、大変御殿場市でも力を入れ、財産区や各種法人のご理解ご協力を得て配備いたしました。

実際、私も電子黒板を使った授業を見学してからは電子黒板が必須だな、これがあればスムーズにできるなど思っていました。その1・2年後にはタブレットが出てきました。電子黒板とタブレットをリンクさせればという話になりますが、リンクせずタブレットを使うから電子黒板は使わないということになれば、当時の予算取りにご協力いただいた方たちに言い訳が立たなくなりますし、リンクするやり方をとれば、有効に活用できると思います。

教育委員会の中でも再三話題となっております、教職員の多忙化の問題についても、タブレットや電子黒板の導入により、教師用に対してパソコンが配備となり、それが負担増につながることもあります。

教科書のデジタル化は前々から言われておりますが、ペーパーレスになってタブレットやパソコン、電子黒板といった自由に教科書を閲覧できる環境がすぐそこまで来ております。現実に教師だけでもデジタル教科書を導入しようかという話も出ています。

若い人や頭の柔らかい人に関してはすぐに対応できると思いますが、年配の方達には新しいことへの抵抗はあると思いますし、覚えるのも一苦労だと思います。導入による負担増は事実だと思います。

もう一点は、クラウドサービスを利用してデジタル教科書を使用したときにセキュリティの問題が出てくると思います。もしデジタル化が進み、子ども達が家にタブレットを持って帰ったときにネット環境をどうするか、家のネットにつながるとセキュリティの問題が出る、家にネットがない子はどうする等の問題が出ます。

解消するためには、キャリア契約をして直接通信を行い、自宅にいるときにはWi-Fiを使用するのが安全なのかなと思います。

月々の使用料金をどこが負担するのか等、導入後も常に対応すべき費用がかかることをご理解いただく必要があります。

よりよい環境にするために導入したことによるその後の費用についても市長さんにはご理解いただきたいと思っております。

市長

---

ありがとうございました。それでは、杉山委員お願いいたします。

杉山委員

---

よろしく申し上げます。基本計画の主要施策に対する重点予算ということで、改めて教育振興基本計画のほうを拝見させていただきました。

「誰一人取り残すことのない学びの実現に向けて」とありますように、幅広い面において寄り添われていると感じております。子ども達がよりよい教育が受けられるように、御殿場市が教育に対し幅広くかつ熱心にご対応いただいていることに深く感謝いたします。

その中で、お伺いしたい点は資料2ページ目の一番上にございます「各補助者等による支援事業の充実の令和4年度予算について特別支援学級補助者を1名増員予定」とありますが、特別支援学級に在籍する生徒が年々増加し、令和3年度には200名を超えると伺っております。このことからより手厚い支援を実現するためには、サポートする補助者の増員が必要だと思えます。

また市では、臨床心理士の資格を持つ心理職の職員を令和4年度に増員すると伺っておりますが、学校現場におきましても専門知識を持った方が加わることで特別支援を取り巻く環境がより一層充実したものになるかと思えます。

支援を要する児童生徒だけではなく、特別支援にかかわる教職員のサポートをするためにも教育分野を専門に扱う臨床心理士が必要になってくると思いますが、その点に関してお考えをお聞かせください。

ありがとうございました。お2人のご意見をお伺いしましたので、先に私の意見を話したいと思います。

回答が逆になってしまいますが、まず杉山委員のご意見からお話しします。

臨床心理士の採用を実施している自治体はごく稀です。県内で2人雇っているのは御殿場市だけではないかと思っています。実は、私が行政課長の時に臨床心理士の採用をしまして、勝又委員からも予算要望がありましたが、私が教育部長のときに予算を計上したものです。当時の財政課長が今の教育部長で、縁を感じますが、そういった経緯で教育費の予算を計上したものでございます。

今回の採用で臨床心理士は、1回目の試験の際に2人の方の受験があったものの、採用に至りませんでした。第2回目の試験で4人の応募があり、1名を採用して合計で3名体制に増やすことができました。

現在の2人体制は、それぞれの業務を未就学の子どもに対応する1名と、小学生から大人までに対応する1名の役割分担により行っていますが、多種多様な相談が多く、現場に足を運ぶのが難しい状況です。

このような中で、増員した1名は、3人目の臨床心理士として、教育部局に手厚い対応ができるよう、幼稚園や学校現場を回ってもらう位置づけでの配置を考えております。

就学支援等に関しましては、関連する委員会が充実しておりまして、その委員の中には臨床心理士も参加しています。先程お話がありましたが、特別支援学級の関係や保育園・幼稚園から学校へ就学するときの審査会に、子ども本人にとっての最善を検討する会議が非常に充実していると思います。

本人にとって最善な環境は何かという視点でアドバイスしてもらっています。それでも、保護者は保護者で意見があり、無視できない中で、何が最善かを模索しながら決めているのが現状です。発達障害支援システムや臨床心理士がいろんな観点から応援していくシステムになっています。

杉山委員からもありましたが、大切な部分になっていきますので一生懸命やっていきたいと思います。特別支援学級で10人から8人に減ったとしても、新しい子が1人増え、増えた子は先生がつきっきりで対応する場合などもあり、子どもの人数だけでは先生の必要数が決まらないことがあります。

急遽先生を増員することもありますし、状況に応じて柔軟に行うのがいいと思います。県と市で役割があり、教員の配置等もそうですが、県だけでは賅えないのは重々承知しておりますので、県と協力していけたらと思います。

それから、勝又委員の意見にも触れさせていただきたいと思います。

旬な話題で、AIの話がでましたが、先日、印野小学校でドローンやAIの関係で、自

分でプログラムを作り実践する事業がありました。

電子黒板については、その扱いをどうするか、どのように導入していくのか、といった点が一時期話題になり、財産区の関係も含めて検討してまいりました。

一人一台タブレットは、このコロナ禍により加速しましたが、家庭学習時の手段としてオンラインによる方法が取りざたされて、自治体への導入が進められてきました。

膨大な数のタブレットの導入費については、国が全部負担するわけではないので、自治体の負担がものすごく大きいものになっております。幸いにも、御殿場市は財産区があり、大きな応援が頂けたので事業を進めることができました。

委員のご意見にもありましたように、導入したから終わりというわけではなく、維持管理費用や、今後の更新費用が自治体の大きな負担になると思います。

また、先生方の立場から考えると、新しい教育のやり方に対応するための労力や、指導方法の模索など様々な課題がこれから表に出てくるかと思えます。

デジタル化については、国の方針で定められていますので、これからも進んでいくと思います。国が決定するものですが、自治体の事情についてはなかなか考慮されていない部分もあります。デジタル化の進展については間違いありませんので、費用は負担せざるを得ない部分だと考えております。教職員の状況については教育長の方から願います。

教育長

---

ICT の1人1台タブレットの導入に係る学校負担については、様々な課題があります。実際、先生方は、どのように子どもの学びに活用していくかという点について、一人一台端末が長い年月で徐々に実現してきたのではなく、前倒しで一気を実現したため、課題に直面している現実があります。

御殿場市でのタブレット導入につきましては、ICT教育の推進のために、中学校はパソコン教室でPCを導入してきたものを見直して、徐々に、子ども達の学びにタブレットが使えるような環境を整える計画を進めてまいりました。

当市はタブレットの導入を早めに進めていたので問題にはなりませんでしたが、他の自治体は、子ども用のタブレットが導入されても、国の予算はすべて子どもに対してのものだから教師用のタブレットの用意ができず困っているとの話も聞いております。

御殿場では今まで使っていたタブレットを教師用に回し活用したりできたので、円滑に一人一台タブレットが実現できたのではないかと思います。

今年、南中学校で指定校研究の中間発表を行いました。ICT教育の推進ということでタブレットを使った授業を先行的に取り組んでもらっています。先行授業を活かしながらも、子ども達に対してどのような学びを提供していくかを考えてもらいたいと思っています。

それと、市では、組織を立ち上げて、どうやって安全にタブレットを使っていくか、

どうやって先生方に授業で活用してもらうか等を検討する組織を立ち上げております。

これはスタートさせたばかりですが、充実させながら円滑に子ども達が学べるような形で進めていきたい、そのように思っております。

市長

---

ありがとうございました。お二人の意見に対して私と教育長の方から意見を述べさせていただきます。それでは大西委員お願いします。

大西委員

---

よろしくお願いします。私の方からは概要版 8 ページの施策 1 の(4)「開かれた学校魅力ある学校づくりの推進」という点に関して、コミュニティスクールについて申し上げます。

コミュニティスクールの推進ということで、子ども達の取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化し、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。

コミュニティスクール導入のため、令和 4 年度は、新たにコミュニティスクール導入のために CS ディレクターの配置に要する経費の増額を要望されていると思います。

コミュニティスクールの円滑な運営のためには、学校と地域をつなぐ CS ディレクターの配置が重要となっております。この件につきまして、予算をしっかりと確保していただけるのでしょうか。

市長

---

ありがとうございます。渡邊委員お願いします。

渡邊委員

---

私も先程大西委員が話されたコミュニティスクールの件で述べさせていただきたいと思います。

コミュニティスクールの推進について、学校・地域・防災の 3 つの観点から述べさせていただきます。

先日市内の学校の研究発表を参観させていただきました。素晴らしいものでした。授業では 1 人 1 台タブレットを活用しながら 1 人 1 人の児童生徒が自分の考えを持ち判断し、発信しておりました。

クラスメイトと話し合っって問題解決に取り組む光景に感動を覚えました。主体的対

話的で深い学びで1人も取り残さないことを目標に、日頃から積み上げてきたからこそその授業だと感じました。

将来世界に通用するプレゼン力の芽を見た思いでした。予算を取っていただき1人1台のタブレットを使って授業ができることに感謝申し上げたいと思います。

2019年12月にGIGAスクールが5年かけて行われるところをコロナウイルスの感染予防対策の関係で前倒しになり、学校ではICT教育を5年かけて準備し実行するところをこの1・2年で習得し、並行して授業をしなければならないわけです。

先生方の習得のために必要なICT支援員や専門スタッフ1人でも多く配置していただけだと痛切に感じました。

一方、先生方の勤務時間である8時から16時30分の中でICTを習得し活用し、授業研究準備に使える時間が、日々の学校生活の中でどうしたら確保できるか考えさせられました。コミュニティスクールがその時間を確保するための一つの手段になりうるのではないかと期待しております。コミュニティスクールの趣旨である社会総がかりで子ども達を育成するあるいは、学校や地域子ども達が抱える悩みや課題に対して、関係者が皆当事者意識を持ち役割分担をもって連携・協働して子どもたちを育ていくこの趣旨に可能性を見る思いです。

次に地域の側面から、これまでは地域のイベントやお祭りに、学校を通して児童生徒、時には先生もボランティアとして参加協力していただきました。元気よく一生懸命に働いてくれました。地域住民はとても助かり笑顔と元気をいただきました。

今後は、GIGAスクールという新たなステージ大きな教育改革の中で地域の私たちがきちんと研修を受けたうえで、学校に出向き協力し足元を支えるお互いさまの考え方、幅広い年齢と様々なキャリアを持ち生きてきた大人たちの存在は特別な技術があってもなくても校内にいることに、意味があることだと思います。

小さな仕事でも1つ変われば1つ分の時間になるのではと思います。児童生徒にとっても地域の様々な大人たちと出会うことは多様性と共に相互の理解・信頼・尊敬の空気につながるものと思います。これは私たち大人にとっても同様です。多少でも先生方がICT環境を推進する時間の確保につながり、1人1人の子どもたちの成長につながる活動だと思います。

最後に防災の側面から、災害時緊急時に地域の大人たちと子ども達がお互いに顔や名前を知り合っている関係があることは、安心感や理解につながり重要です。命を守ることにもつながります。また、きちんと自分たちの命を守るために、誰1人取り残さず、持続可能な社会を作るためのSDGs17のゴールと169のターゲットの実践にも通ずるものと思います。以上コミュニティスクールの必要性を述べさせていただきました。

学校・家庭・地域・行政それぞれとの連携・協働・調性等の総合窓口となり円滑な運営のために学校と地域をつなぐCSディレクターの配置が重要となっています。11月24日の静岡新聞にコミュニティスクールに関する記事がありました。

2020～2021年5月1日時点で、コミュニティスクールは、全国で約200校増え1万1165校に増加しており、文科省は全校指定を目指しているとのこと。

御殿場市ではコミュニティスクールが、今年度は、富士岡中学校で実施され、4～6月の3ヶ月で延べ73回135人もの方々が参加しています。

令和4年度は新たに高根中学校区で導入予定です。ここにコミュニティスクールのための予算を要望したいと思います。加えて、御殿場市全小中学校に組織として、富士岡中学校の実践「いつでもどこでも楽しく」を共有させていただき、何らかの形で導入できる施策を切望しています。以上です。

市長

---

ありがとうございます。それでは、先に長田委員お願いします。

長田委員

---

勝又市長さんとは初めての総合教育会議ということで、よろしくをお願いします。

先程から教育長、勝又委員からありましたように教育部長さんだったからではありませんが、当市の子ども達が富士山のような大きな心を持った人になるために、教育委員として令和4年度の重点予算として要望させていただきたいと思います。

まず先程から話題に出ておりますが、国は未来社会、国家戦略として Society 5.0 を、以前より提唱しております。すべての人とモノがつながる IOT、人工知能、AI、ロボット工学等様々な最新テクノロジーを活用することで新たな経済成長と同時に社会的課題の解決を期待するといっております。

EdTech という用語があります。Education と Technology 教育と技術を組み合わせた造語ですけれども、IT 技術を教育の分野にどのように利用して新しい価値またイノベーションを起こすのかといった取り組みやサービスを説明している言葉なのですが、数年前に、経済産業省に未来の教室と EdTech 研究会という会議が発足されました。

その中の一つが、今の小中学校に1人1台パソコンを配備するという GIGA スクール構想に繋がったと勝手に思っております。

そんな中で、当市も先程から話が出ておりますけども第2期教育振興基本計画の「第2章教育の取り巻く社会情勢」の中にも Society5.0 という用語が出てまいります。

1人1台パソコンの急速な導入により ICT 環境に大きな変化が生じると記載されています。財産区の支援をいただきまして御殿場市も令和2年度には1人1台のタブレット方針に後れを取らず無事に整備されました。

今年度からは、タブレットの本格的な活用が始まるわけですが、教育における ICT 環境が急速に進展しているため、先日南中学校に当教育委員会と県の教育委員会とで

GIGA スクール構想下における主体的多様的で深い学びの実現に向けた授業改善の公開授業がありました。

子ども達が英語・理科・社会の授業でタブレットを活用して学ぶ様子を見てまいりましたが、楽しそうに学んでいる様子を見させていただきまして、安心をしました。

しかし、導入した ICT 機器については、学校現場で適切にそして効果的に使わなければまったく意味がないと思っております。

ただ、端末を人数分揃えて終わりではなく、やはり家庭学習のみならず、生徒や先生の連絡にも活用するなど教育全体の改革につなげていかなければ宝の持ち腐れになってしまいます。このことを回避するのが非常に大事なのではないかと思います。

教員の多忙化についても、この総合教育会議の協議事項となりまして 1 人 1 台端末の導入以前の話でありました。

子どものために一生懸命働くということは、教職の大前提であり、誇りであると思えますが、毎晩毎晩遅くまで残り、土日も仕事をしなければ教員としての矜持が持てないということはないと思っております。

教員としての献身性というのは真剣に授業に臨む姿とか、真摯に子供に向き合う姿にあると思えます。教員が倒れていく世の中が当たり前になっている世の中が現在の学校の教育事情であります。このままでは教育システムが破綻する可能性があるのではないかと危惧しております。

多忙化する教員には、その上に情報通信技術を活用した教科の学びを深めるための指向上の学びがさらに求められることになってきております。

さらに文科省は、情報通信技術の進展により、各種試験や国際的な学力調査パソコン使用が増えて、小中学校から操作に習熟する必要があるとして 2025 年度から小 6・中 3 の全国学力テストパソコンを使う新方式を導入するようなことを発言しております。

このように状況が目まぐるしく変わっていく中で、社会情勢に対応していくために静岡県は、情報通信技術を活用した教育の促進に向け、新たな ICT 教育戦略室というのを設置したそうです。オンライン学習の機器整備や教員育成など体制の強化をするためとのことです。企画調整の統括する部署とハードやソフト面の整備をする部署、教員の研修や現場研修に対応する 3 部署で役割を分担して行うそうです。さらに外部のアドバイザーも設置するようです。

御殿場市の子ども達が、これから生き抜く力としてデジタル機器を活用してネット社会に適応能力を付けるために、端末が授業を支援する補助教材ではなく、子ども達が学ぶツールのための 1 人 1 台となり、ICT による学びの広がりや深堀につながり、富士山のような大きな心を持った人づくりをするため、そして多忙化する教員のため、学校現場に十分なサポートをする体制をとることが必要不可欠だと考えます。

そこで資料の 2 ページ目の ICT 支援員の配置は必要であります。支援員による教育支援授業支援を行うことが求められておりますし、必要不可欠であると考えます。

もう1つ加えて、3ページ目一番下にあります教育のICTに伴う新たに専門的に対応するスタッフを創設施設という項目もあります。これも教育委員会内の組織改正の改変をぜひ実現できますようお願いしたいと思います。

また、図書館についても話させていただきたいと思います。教育委員会でも新しい図書館について何度か話題に出ておりますが、今年のプロポーザルに向けて、技術提案がされて、最終的に業者が決定すると聞いております。

当然、お金のかかる大きな事業になると思います。本体の建設以外にも敷地造成工事や汚水等の放流策などの河川の整備等のことにもお金がかかると聞いておりますので、やはり生涯教育も含めて、子どもも大人も利用しやすくずっと本に親しめるような、気軽に立ち寄れるような、使い勝手のいいような建物を実現いただきますようよろしくお願いしたいと思います。

3点にわたっての要望ではございますがどうぞよろしくお願い致します。

市長

---

貴重なご意見をありがとうございました。3人の委員の皆さんからご意見いただきましたが、コミュニティスクールの関係、CSディレクターの増員についての必要性は私も感じておりますので前向きに検討させていただきます。それと加えて、コミュニティスクールのモデル校として富士岡中学校で実施し、次が高根中学校との状況なのですが、これらの充実を図っていかなくてはなりません。

子ども条例は、総がかりで子どもを育てていく発想を基に作られました。その中で、学校だけではなくて地域の方々と一緒になって子どもを育てていく姿勢は子ども条例の一番の理念だと思いますので、よく承り活かしていきたいと思います。

先生のスキルであるとか指導力に対しての支援に関しては、なかなか物が入っても活用できなければ何の意味もなく、電子黒板の時も言われましたが、得意な先生もいるし得意でない先生もいる中で、全体で底上げを図っていくべき課題です。

問題としては、なかなか国が面倒見てくれない部分なので、市の負担を伴ってやらなければいけないことだと思っております。

組織改編の話が出てきましたが、教育委員会は施設関係が教育総務課、学校関係が学校教育課、社会教育が社会教育課など、それぞれ分かれておりますが、教育総務課と学校教育課の事務の曖昧な部分があったので、明確にICTを推進するスタッフを作るとの組織改革を行う予定でありまして、来年度から実現します。

それが今後どのように機能していくかは、未知数の部分もありますが、一つ独立した専門部署を教育委員会の中に作るということです。課題にも迅速かつ的確に対応していきたいと思います。

コミュニティスクールの問題が今出ましたので現状や課題があればおっしゃっていただければありがたいと思います。

---

コミュニティスクールにつきましては、子ども条例が基本となって動いておりますので、いかに地域を巻き込んでいくかが重要なポイントになると思っています。

コミュニティスクール制度というのは学校を核として地域を支えていこうという考えもありますし、地域の中で学校の存在感を高めていこうという考えもあります。

そのため、現在富士岡中学校区については地域を挙げて学校を助けるという体制がありました。それは基本的には学校の先生を助け、子ども達のためにという意味での実務的な意味が多かったと思います。

コミュニティスクールには学校運営協議会というものがありまして、学校の運営について地域の方が自由に意見を言えたり、学校長をいろんな意味で助けたりといった概念がありますので、文科省が示しているコミュニティスクール制度に御殿場のコミュニティスクール制度をいかに合致させていくかというところがあります。

富士岡中学校から今年度の活動発表があり、皆で参加しました。次は地域の違う高根中学校区の数少ない幼保小中のなかでの連携をどのように進めるか、高根地区にも地域の支援団体がありますので、どのように協力していくか、御殿場の課題としましては地域がしっかりしているがゆえに、地域の既存の団体と学校がいかに協力していくかまた、義務と幼児教育の問題をどういう風につなげていくかという問題がありますけれども、垣根をしっかりと設けられる形でコミュニティスクール制度をしっかりと入れていくことが大きな課題となっています。

市内には、6中学校ありますので今後は順次導入し、6中学校区で整備が整った段階で、御殿場市のコミュニティスクールの体制がある程度形作られていることを期待しているところであります。

市長

---

ありがとうございました。先程協力していただける人が170人程度いる話でしたが、元気なお年寄りも増えており、様々な能力に長けた方が様々分野で数多くいると思います。

コミュニティスクールは、明確な位置づけがなく、議会の質問も度々受けておりますが、地域が強くなると学校に制限がかかるなど、先生の邪魔になってしまうのではないかという懸念もありました。

コミュニティスクールの理念自体はすごく良いものです。しかし、実際問題としてうまく機能するかという課題がございました。ようやくモデル事業として実施し、地域と学校の連携もみられておりますが、実態は大変難しいところなのかなと思っています。ちなみに、どのような方からの協力を受けているのでしょうか

---

富士岡中学校区の場合は、富士岡中学校の応援隊という団体や、一定年齢の方々からの助力を受けている状況です。

実際、子どもの数が減っておりますので、それに伴い PTA の数も減っております。地域の方々に助けていただくというのは学校としては、1つの生命線になってきますので富士岡ではそういう団体がいたことが1つスタートのきっかけになったものです。

市長

---

ありがとうございました。タブレットの関係等色々ありましたが、他にありましたらお聞かせください。勝又委員お願いします。

勝又委員

---

先日小学校と中学校の研究発表に参加させていただきまして、授業の内容がタブレットに置き換わっても授業ができる段階まで来ているように見受けられました。

授業内容そのものはタブレットをすぐに置き換えても、現在の授業がそのままスムーズに進行していく準備をしているのかなと思いました。

タブレットをどのように活用していくのかという話で、教師用パソコンでどうリンクして、どう使用していくのかという話を今ここでしていますが、実際問題としてはタブレットとパソコンは文房具だと思います。

子ども達の方がすんなり受け入れるのではないかと思います。今こんな話をしても、数年後のランドセルの中身は、タブレットが1個入っているだけという時代がすぐ来ると思います。

インターネットができたのが平成7年くらいです。平成5年には電話回線を使ってサーバーにアクセスし、通信料として電話代を払うのが一般常識でした。

昔は、300bps や 1200 (1.2Kbps) bps で速いと言っていましたが、今は K (キロ) bps ではなく M (メガ) bps ・ G (ギガ) bps の世界になっています。それが当たり前になってきています。

日進月歩の中でタブレットを使いこなすのが大変とっていますが、所詮は本当に文房具で、私の仕事でもドラフターというものがなくなりました。昔は T 定規も使っていました。就職した後もドラフターを使って図面を書いておりました。今は、ドラフターを使っている事務所はどこにもありません。

すでにキャドを使って図面を書くことが当たり前になってきています。当然その時に、苦勞してパソコンによる活用を試行錯誤しておりますが、一つの道具としてとらえ

ておりますので今では、抵抗なく使用しています。

電子化をしていないと逆に面倒なことが多いのも事実です。電子化をしていることによって、似たような物件ならそれをベースに修正して作成でき、また、細かい部分もコピーで使えるという良さがあります。

手書きよりはるかに優れたところがあります。ですから、我々は、道具、文房具として受け入れております。子ども達も先生も文房具として、傍から見ているよりは簡単に受け入れられているのではないかと考えております。

導入当初はサポートが必要になってくるかと思いますが、やはり「習うより慣れろ」で、気軽に触れていけば習熟すると思いますので、それほど危惧はしておりません。

ただ、先ほども申し上げましたが、導入して終わりではなく、導入後に思いもよらないコストが発生してくる可能性が非常に大きいと思います。ぜひ市長さんには、その点をご理解いただき、子ども達のため、御殿場市の将来のためにご配慮をお願いしたいところでもあります。

市長

---

ありがとうございました。教育には私も思い入れがありますので、しっかり取り組んでいきたいところでもあります。

こちらから指名して申し訳ありませんが、大西委員何かございますか。

大西委員

---

私が区長をやっていた頃は、特別支援学校のコミュニティスクールのメンバーだったので、デレクターの方のご苦労は重々承知しております。

ひとつ気になるのが、スマホ等にのめりこんでいくことで、授業にタブレットを使用するのは問題ないのですが、ゲーム等を行っているとスマホ症候群といえますか目が悪くなっていくと思います。

私自身が黄班変性症という、ブルーライトからの影響で歪んで見える病気になったので、パソコンとかテレビとか電子機器が目が悪影響を与えているのではという思いがあります。

機能として、ブルーライトを制限できるものが出ていますが、今の子どもたちは3歳ぐらいから日常的にタブレットなどを使っていて、当たり前のように道具として使っております。

使う側としては便利なものですので、日々機能は進化していきますが、逆に目の方は悪くなっていくのではと思います。

成人してから、気を付けてくれと言われても困る、最初から言ってくれということもあり、子どもたちの目は大丈夫なのかなと思っております。

市長

---

ありがとうございました。先程、図書館の関係で長田委員から意見がありましたが、図書館は何年も前から下準備を進めておりました。

設置場所の検討は庁内の検討委員会で進めまして、市内の土地利用の基本方針というものがありますが、その検討の中で、現図書館がある市街地の御殿場地区は、御殿場市中心的な市街地としての位置づけになります。なかなか土地が高いため場所の選定が難しいところがありました。

原里地区はどちらかというと工業や企業雇用の場所で、高根地区は元々田園都市自然を生かした土地の利用、それから印野地区も同様に里山のような土地、玉穂地区が文化交流の土地であるという特色を色々考慮し、最終的には玉穂地区か原里地区まで絞りました。

最終的には玉穂地区に決まりました。これは、ふじざくらがあり、陸上競技場があり、活用可能な土地の広さ等も考慮し玉穂に決まったものです。

設計を絞った中であっても、建設コストとしては30数億円という金額が算出されて、最終的には、活用しやすい施設、御殿場の自然を生かした風貌の中でプロポーザルにより業者が決まり、決定した業者の方が提案してくるかと思えます。

これから30数億円のお金をどうやって捻出するかというと、図書館に対する国からの補助金は皆無で、防衛の補助金も出ない中で、財源の捻出が難しい状態ですが、地元財産区には、公共施設に過去には援助していただいていることも鑑みて、現在交渉を進めているところです。もし財産区のご支援を頂ければ、残りは市費の負担になります。

図書館は玉穂地区に作られますが、御殿場市の資料館も図書館に併設し、眠っている資料を披露する場であったり、文化に関する発表だつたりに使えないのではないかと考えておりますので、図書館は、使いやすいもの、目玉になる施設として期待しているところです。

玉穂財産区にお願いをさせて頂いておりますが、建設費用がかなりの金額となるものの、市のためには仕方ない面もあるとのことで、かなりのご負担をいただけることになりました。

造成までは玉穂財産区のご支援により行います。建築については、各財産区の支援がどの程度になるのかはまだ決まっておりませんが、ご援助いただけることを願っております。

図書館は、若い人たちが集まる場、中学生・高校生のこれからの教育環境の場として

いきたいこともあり、先日、御殿場西高校と行政に関する意見交換会を行いました。

SNS が鍵になっているという話がありましたが、その影響力は非常に大きいと思います。

御殿場市の観光で来ていただいている数について、静岡市が1千万弱で、次いで、御殿場が誤差で浜松市を抜きました。若い子たちが御殿場のどこに魅力を感じているのか、どのようにしたら観光に結びつくのかといった点について、SNS が発信の場にもなりますので、高校生の発想は非常に参考になりました。子どもの頃から発信能力を身に付けていくことは大事なことなのかなと思います。

アウトレットに約1千万人、時之栖に300~400万人来訪しており、新しいお客さんの獲得競争になっているのですが、アウトレットの来訪客が観光で市を回ったら莫大な数になりますので、実現するため様々な形でPRをしております。

アウトレットに来た人たちに、SNS で渋滞情報を発信し、渋滞解消に数時間かかる状況が判明したときに、渋滞解消まで御殿場市を回るコースを発信するという発想が高校生から出ています。非常に大事なことだと思います。

新しいお客さんを連れてくるのも大事ですが、既に県下第2位のお客さんが来ておりますので、そのお客さんを大事にするのも重要なことなのかなと思います。

本日の記者会見で、御殿場市の中で何が一番の魅力かアンケートを取ることを発表しました。これは、50項目の中から選んでもらった結果を今後の戦略のヒントにするとともに、若者に行政への関心をもってもらいたいと考え実施するものです。

選挙の投票率を見ても明らかですが、20代30代の投票率が圧倒的に低く、3割程度となっておりますので、まずは関心を持ってもらうのが第一であります。

長田委員から何かございますか。

長田委員

---

先生方が傍聴されておりますが、教員の多忙化に関して気になっております。

教育委員会の中でも、民間の企業でいう36協定に近いような残業の実態調査等の話も出ておりますので、生産性を下げるような調査をしないでもらいたいと発言したことがあります。先生というのは聖職だと思っています。

人をどう育てていくのかといった点や、大人になっても学ぶという姿勢は必要だと思っています。その中で、先生方が、あまり生産性や能力に縛られずに、「なぜ先生になりたいのか、何をやりたいのか」といった事をもっている人たちに教師になっていただいて、気持ちを込めて子どもを育ててもらい、それが、子どものためなる事につながっていくのかなと思っています。

やはり、多忙化は喫緊の課題ですが、いかに教育委員会としてフォローをしてあげられるのか、手助けができるのかは一番気になっております。

市長

---

教育長何かあればお願いします。

教育長

---

教職員の多忙化については全国的な課題で、御殿場市でも色々な取り組みをしています。

先程長田委員から話があったように、教員は何のためにいるのかという事を考えることが大事で、やはり子どもたちを育てる等が大きな目的であり使命であるため、目的に関係のない他の業務を減らし、子どもと向き合う時間を増やしてくるために取り組んでおります。

様々な業務が重なることがあり、学校現場としては厳しい状況ではありますが、子どもとしっかり向き合って、よりよく育てるための環境の確保が一番大切にしていきたいと思っております。

採用試験で面接を行いますと、先生になりたいという人の多くが、学生時代に素晴らしい先生に出会ったことがきっかけで先生になりたいという夢を持っています。

高校生の子に将来のアンケートを取ると上位に教師が出てきます。ただ、大学に入って就職活動をすると「現実に学校現場はこんなに忙しいのか、自分を犠牲にしてまでちょっと無理だな」と思わせてしまう現実もありますので、気持ちが勝る職場にしたいと思っています。

本質以外の仕事は減らしていきたいと考えております。ご意見等ありましたらまた教えていただければと思います。

市長

---

ありがとうございました。渡邊委員何かございますか。

渡邊委員

---

ICT教育のことや、先生方の働く手間のこと、家庭のことなど、色々聞かせていただきました。

こうして1つ1つ課題に挑むことを、様々な大人の人の立場で考えていただきながら、近い未来に解決が実現するのかもしれませんが、こうして気持ち寄り添いながら対策を考えられるというのは、御殿場市の子ども達や、あるいは保護者に聞かせてあげたいと思っております。

市長

---

ありがとうございました。委員の皆様から様々なご意見を伺いましたが、私が述べさせていただいたものは、部分的であったり、一部の発言した部分のみであったりしたかもしれませんが、皆様の1つ1つのお言葉は、承らせていただきます。

また、頂きました予算等に関するご意見は、前向きに検討していきますので、是非ご了解いただきたいと思います。

## 5 閉会

---

教育総務課長

---

ありがとうございました。

教育委員の皆様も、今後の参考となる貴重なご意見をありがとうございました。

今回の総合教育会議を踏まえた上で、予算化に向けた市長査定に臨むことになると思いますのでご協力いただけたらと思います。

本日の協議につきましては以上となります。

市長、教育長、そして教育委員の皆様、本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

以上をもちまして総合教育会議を終了させていただきます。

午後3時00分閉会